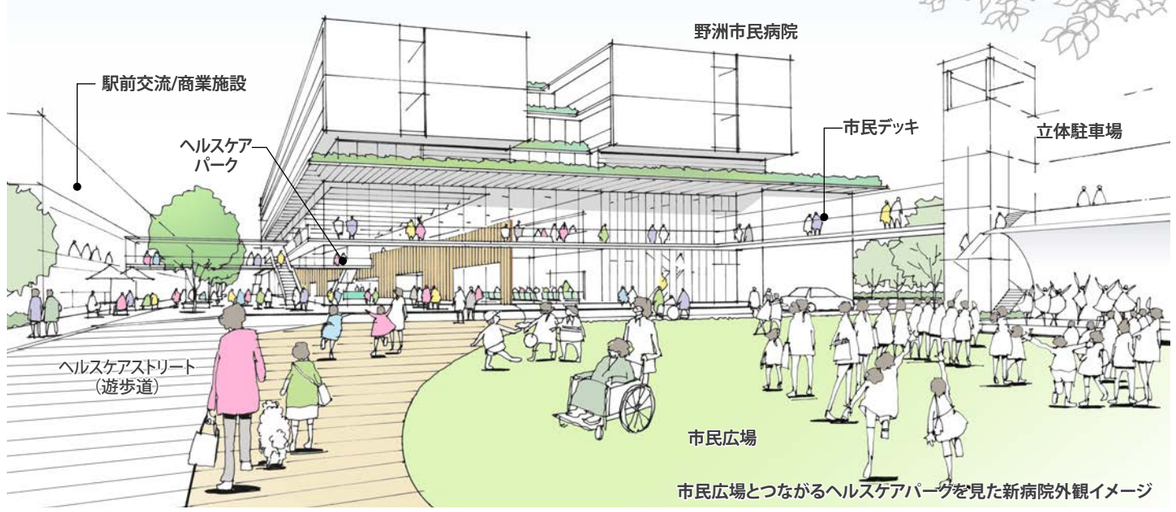
「野洲ヘルスケアタウン」－まちを育む病院を目指します

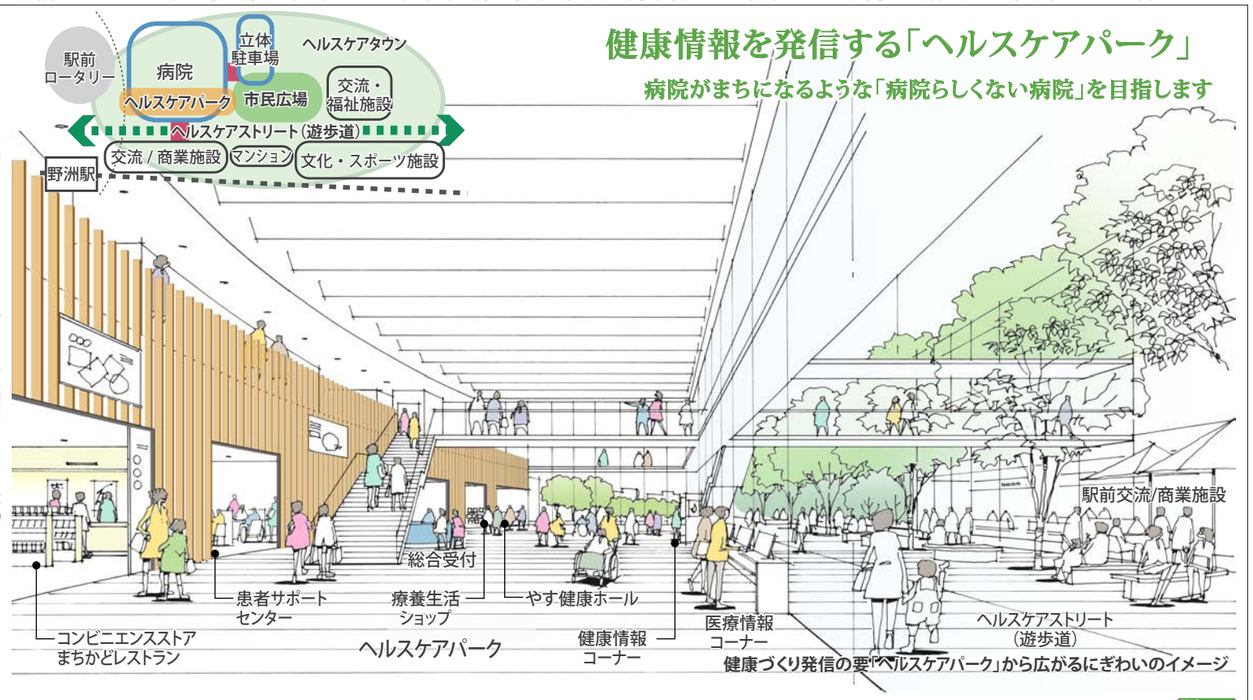
新病院は、地域包括ケアシステムと「野洲駅南口周辺整備構想」の多世代交流型のまちづくりが一体となった「ヘルスケアタウン」を実現します



市民広場とつながるヘルスケアパークを見た新病院外観イメージ

健康情報を発信する「ヘルスケアパーク」

病院がまちになるような「病院らしくない病院」を目指します



健康づくり発信の要「ヘルスケアパーク」から広がるにぎわいのイメージ

病院がヘルスケアタウンをつくる

提案テーマ（１）（２）

1 病院とまちがひとつに繋がる「ヘルスケアタウン」

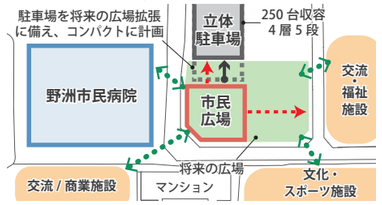
- 新病院は、将来整備の交流 / 商業施設、文化・スポーツ施設と連携し、**まちをひとつにつなぐ**。
- 新病院は、市民広場側の「交流・福祉施設」と連携し、医療支援・福祉関連施設等の**包括ケア機能**を担う。
- 「病院」-「市民広場」-「交流・福祉施設」の連携により、ゆるやかなヘルスケアタウンを形成し、交流が生まれる。

2 にぎわいをつくる「ヘルスケアタウン」

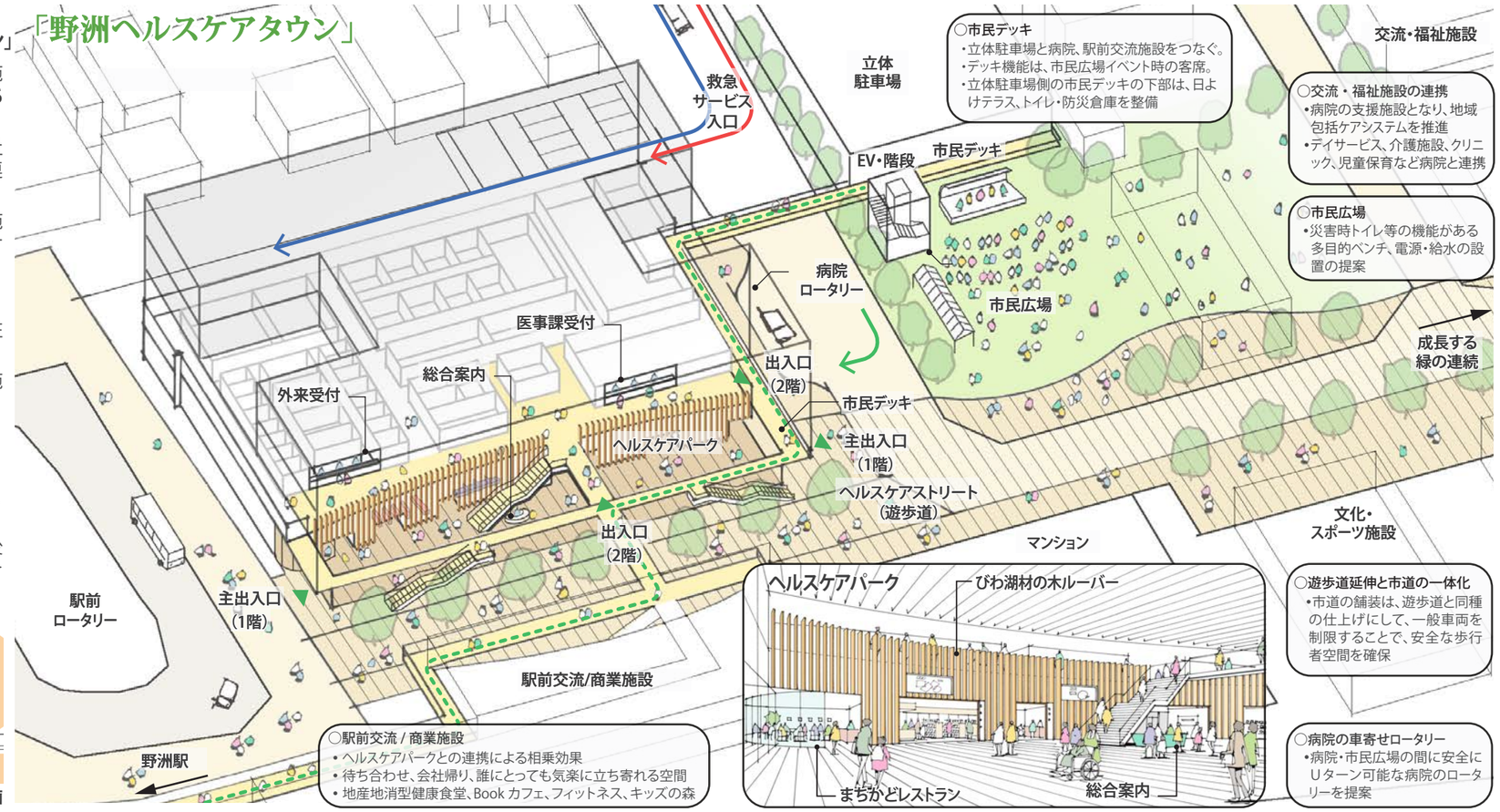
- 市民デッキが駅前ロータリーと立体駐車場をつなぐ。
- 市民病院が周辺環境、交流 / 商業施設のにぎわいをつくる。
- 通学路を含めた安全な交通計画。

3 市民広場と駐車場

- 20年後のヘルスケアタウンの視点で、大きな市民広場を考える。
- あらかじめ立体駐車場を広場から後退させ計画し、20 年後の市民広場をイメージする。



20年後を見据えた「市民広場」の計画



4 成長する駅前と共生する「ヘルスケアパーク」

- 新病院の１階にある**「ヘルスケアパーク」**が、「市民デッキ」「駅前ロータリー」「交流 / 商業施設」「市民広場」をつなぎ、人の動きが生まれ、出会いが生まれ、にぎわいを生む。
- **地場産材（びわ湖材）の木ルーバーに包まれた**ヘルスケアパークは、どの入口からでも居場所を認識しやすい**居心地の良い開かれた公共空間**となる。
- ヘルスケアパークの空間的な「わかりやすさ」と、**病院の日常的な「かかりやすさ」を備えた雰囲気**が、駅前のまちづくりに貢献。

5 「ヘルスケアパーク」は情報発信基地

- **病院のビッグデータ・地域包括ケアシステムのネットワーク化**などを基にし、「健康」をキーワードに市民に開放。
- ヘルスケアパークは、開かれたスペースとして、**気軽に医療や健康情報を調べることができるコーナー**や地産地消の食材で健康食を提供する「まちかどレストラン」など、**日常的に利用**しやすい機能を持つ。

6 地域包括ケアシステムのシームレスな窓口

- 新病院は**駅前の利便性**を最大限に活かし、相談窓口やケア会議など、医療（医師会、病院）、保健、福祉介護のスムーズな連携拠点となる。